【 18 】

氏名	藤 田 邦 雄
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 483 号
学位授与の日付	昭和54年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学専攻 （学位規則第5条第1項該当）
学位論文題目	**右心室新設術の研究** **右室形成不全症根治術としての評価**
論文審査委員	教授 折田 薫三　教授 中山 沃　教授 小坂二度見

学位論文内容の要旨

三尖弁閉鎖症などの右心室の極度の低形成を伴う心疾患及び単心室症の治療法としてFontan 法など右房一肺動脈を短絡し，右室を除外する術式が近年次第に盛んになってきた。しかし右房の拍出力が充分ではないためこれらの術式の適応となるのは一部に過ぎず，残りは姑息的方法にゆだねられている。この治療には十分な拍出力を有する右心室の新設が必要と考え心外膜上に右心室を造設することを試みた。

21頭の犬を用い，テフロンパッチを左室自由壁全面を被うように縫いつけて右心室を新設し，これと右房及び肺動脈の間を同種弁付大動脈で連絡した。固有右室から新右室への血流変換は肺動脈基部の遮断によった。

血行動態を測定し得たのは8例で新右室収縮期圧（平均26.5 mmHg）は右房最大圧（平均23.7 mmHg）をうわまり，新右室圧波形は心室圧波形に近かった。肺動脈血流は新右室圧及び肺動脈圧波形とほぼ等しく，新右室の仕事量（1.0 $g \cdot m$）が正で拍出力を有することが判明した。左室収縮期圧と新右室収縮期圧及び新右室拍出量との間には正の相関があり，新右室機能に左室機能が大きな影響を与えていた。また新右室容積が固有右室容積との比で150%以上の過大なものは短時間で死亡し，正常右室容積に近いもので長時間の生存が得られた。

本法の臨床応用にあたっては，肺動脈の遮断は必要なく，右室も低形成か存在しないため，心前面に容易にパッチを縫着出来，好成績をあげることが期待される。

論文審査の結果の要旨

本研究は右室形成不全症根治術の開発を目的に行われたもので，テフロンパッチで犬の左心室の外側に，右心室とほゞ等容積の部屋（新右心室）を造設し右心室の代りに用いるなら，右心室の働きを十二分になし，長期生存犬のえられること，血行動態もほゞ正常なることを

明らかとしている。この手術々式は本研究者のオリジナルであり，臨床応用の日も近いものと思われ，その業績は高く評価されよう。以上より，本研究者は医学博士の学位を得る資格があることを認める。